

200500040 B

平成 17 年度
厚生労働科学研究費補助金
政策科学推進研究事業

医薬品の価格設定に関する国際比較研究

平成 16 年度～17 年度総合報告書

主任研究者 白神 誠（日本大学）

目次

1. 調査研究の概要	5
1. 1 調査研究の背景と目的.....	5
1. 2 調査研究項目	6
1. 2. 1 海外薬価の現状調査分析	6
1. 2. 2 国内製薬企業ヒアリング	6
1. 2. 3 海外薬価当局訪問調査.....	7
1. 2. 4 日本におけるフラットプライス導入可能性の検討	7
1. 2. 5 実施スケジュール	8
1. 3 実施経緯	9
1. 4 体制.....	9
2. フラットプライスの定義.....	10
3. 海外薬価の現状調査.....	12
3. 1 対象と抽出方法	12
3. 2 各国の薬価制度と使用した薬価リストの概要.....	13
3. 2. 1 米国.....	13
3. 2. 2 ドイツ	14
3. 2. 3 英国.....	15
3. 2. 4 フランス.....	16
3. 2. 5 各国の抽出件数の状況.....	17
3. 3 各国のフラットプライスの状況.....	17
3. 3. 1 全体.....	17
3. 3. 2 国別の状況.....	21

3. 3. 3 薬効群別の状況.....	21
3. 3. 4 2カ国以上でフラットプライスのある成分.....	24
3. 3. 5 各国でフラットプライスが採用されている製品の状況.....	25
3. 3. 6 日本の薬価の状況と海外との対比.....	28
3. 4 各国の過去の薬価の変更経緯.....	29
3. 4. 1 目的.....	29
3. 4. 2 調査対象と方法.....	29
3. 4. 3 調査結果.....	29
4. フラットプライスが採用される条件についての仮説.....	33
5. 製薬企業のヒアリング.....	34
5. 1 ヒアリングの目的と実施経緯.....	34
5. 2 フラットプライスが採用された経緯と現状について.....	34
5. 3 フラットプライスの利点と弊害.....	34
5. 3. 1 フラットプライスの利点.....	34
5. 3. 2 フラットプライスの弊害.....	35
5. 3. 3 前提となる医薬品の投与方法等の違い.....	36
5. 3. 4 医療費への影響について.....	36
6. 欧州薬価当局訪問調査.....	38
6. 1 訪問調査の概要.....	38
6. 1. 1 目的.....	38
6. 1. 2 訪問先と実施経緯.....	38
6. 1. 3 質問項目と実施方法.....	39
6. 2 ドイツ.....	40

6. 2. 1 回答者	40
6. 2. 2 薬価の決定方法	40
6. 2. 3 フラットプライスの状況	41
6. 3 フランス	42
6. 3. 1 訪問先回答者	42
6. 3. 2 薬価の決定方法	42
6. 3. 3 フラットプライスの状況	43
6. 4 イギリス	45
6. 4. 1 訪問先回答者	45
6. 4. 2 薬価決定の概要	45
6. 4. 3 フラットプライスの現状について	46
6. 4. 4 フラットプライスの医療への影響	46
6. 4. 5 その他	46
6. 5 海外薬価当局訪問調査のまとめ	47
6. 5. 1 価格制度	47
6. 5. 2 フラットプライスの状況と行政当局の考え方	47
6. 5. 3 フラットプライスが薬剤使用に与える影響	47
7. フラットプライス導入による薬剤費への影響の検討	48
7. 1 薬剤費への影響の算定方法	48
7. 2 製品ごとの薬剤費変化のモデル	48
8. まとめ	51
8. 1 海外のフラットプライスの状況	51
8. 2 海外の薬価政策とフラットプライス	52

8. 3 日本でフラットプライスを導入した場合の影響	52
参考文献.....	53
資料編	55

1. 調査研究の概要

1. 1 調査研究の背景と目的

現行の日本の薬価制度では、規格間調整という形で、含量に応じた価格設定が行われており、含量の差が大きく薬価に影響する仕組みとなっている。一方、海外では、医薬品によって含量が異なっても同一価格としているケースやほとんど価格差を設けていないケースなど（いわゆるフラットプライス）が見られる。このような価格設定の方式が採用される背景としては、患者特性に対応した必要な含量の医薬品の供給を可能とし、また、患者の一日あたり負担の均一化を図るなどの、医療政策上のメリットがあること、製造原価が必ずしも含量に依存しない医薬品において合理的な算定方式であることなどが想定される。

しかし、海外において採用されているフラットプライスの実態については、これまでに体系的に把握は行われていない状況にあると考えられる。そこで、本研究では、このような同一成分の医薬品の価格設定について、海外における実態を調査し、その価格設定がどのような意図と方式で行われ、またその価格設定方式が有効に機能しているかについて分析することにより、今後の日本における薬価の設定方法の参考資料を提供する。

なお、平成 15 年 11 月 28 日の中央社会保険医療協議会薬価専門部会においては、規格間における薬価の差異の有無については、海外における実態等を踏まえて次回以降の改定において検討を行うことが決定されている。

本研究の成果は、今後の中央社会保険医療協議会において検討を行う際に、薬価設定方式についての選択肢を提供するとともに、医薬品使用の効率化や、適切な規格の医薬品の供給などの可能性について議論するための基礎的な情報となることが期待される。

1. 2 調査研究項目

本研究における調査研究項目を以下に示す。

1. 2. 1 海外薬価の現状調査分析

(1) 海外薬価調査

以下の調査により、同一成分で含量に複数規格がある医薬品（経口薬）について主要国における含量による価格差を調べ、フラットプライスの適用の状況を把握する。

- ・ 海外の薬価について、公定価格、参照価格、その他公開されている価格のリストを通じて調査を行う。
- ・ 主要国としては、米国、イギリス、フランス、ドイツを対象とする。
- ・ 薬価制度の違いや、公表されている価格の性格の違いから、単純な比較が不適切であることも想定されるため、リストアップされている価格の薬価制度上の意味を検討し国による違いを明らかにする。
- ・ フラットプライスがあるものについては、発売当初からそうであったのか、発売後時間を経てそうなったかを把握するため価格の変遷も調査する。
- ・ 整理に当たっては、薬効分類、各国のグルーピングの基準による分類、発売後の時間経過等を考慮する。
- ・ わが国の薬価についても同様の調査を行い、海外の状況との対比を行う。

(2) フラットプライス採用に関する仮説設定

海外薬価調査の結果を基に、どのような考え方に基づいてフラットプライスが採用されているのか、どのような医薬品についてそのような考えがとられているのかについて、以下のような点を中心に考察し、仮説を立てる。

- ・ 各国別の全体の品目における価格設定方法別の状況
- ・ 医薬品の特性、薬効分類等による違いの有無
- ・ 各国の医療保障・薬価政策における意味
- ・ 製薬企業の経営から見た意味

1. 2. 2 国内製薬企業ヒアリング

フラットプライスによる価格設定を国内で導入することに関し、有効性、課題、製薬企業に与える影響等について、国内の主要製薬企業の認識等を把握することを目的としてヒアリング調査を行う。

1. 2. 3 海外薬価当局訪問調査

フラットプライス採用に関する仮説を検証し、併せてその薬価設定方法の有効性、課題をとらえるため、海外の薬価当局に対するヒアリングを行なう。

1. 2. 4 日本におけるフラットプライス導入可能性の検討

現行の日本の規格間調整による薬価設定方式に、フラットプライスを含めた価格設定方式を導入した場合の、期待される効果、実施上の課題を取りまとめるとともに、医療費に及ぼす影響について検討する。

1. 2. 5 実施スケジュール

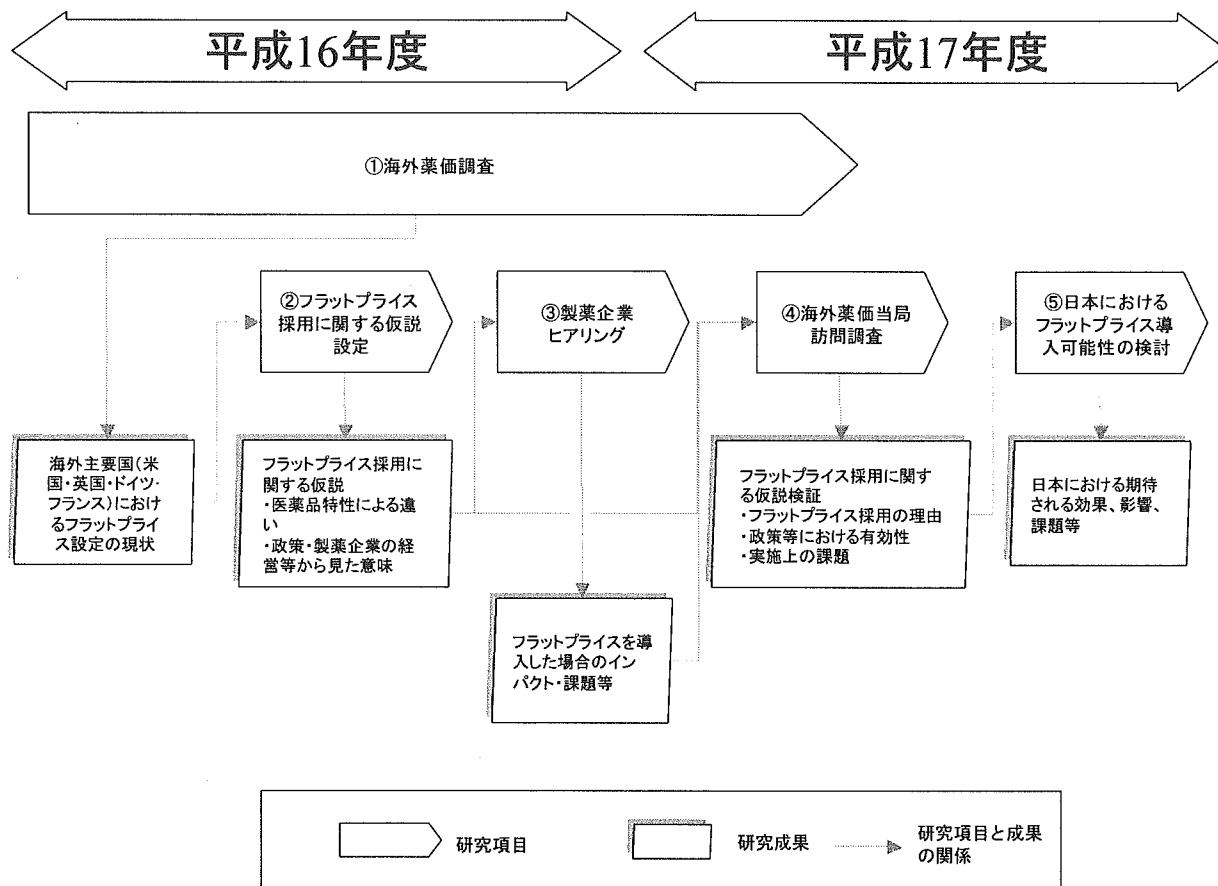


図 1-1 研究項目の流れと成果の関係

本研究の研究期間は2年とし、平成16年度においては①海外薬価調査、②フラットプライス採用に関する仮説設定、③製薬企業ヒアリングを実施し、平成17年度においては①の海外薬価調査の補足（日本の薬価の現状調査と海外薬価の過去の経緯に関する調査）、④海外薬価当局訪問調査、⑤日本におけるフラットプライス導入可能性の検討を行った（図1-1）

1. 3 実施経緯

2年間における、調査研究項目ごとの実施経緯は表 1-1に示す通りである。

表 1-1 研究実施経緯

時期	実施内容
平成 16 年 8 月～10 月	海外医薬品の価格情報の抽出と整理
平成 16 年 11 月～ 平成 17 年 1 月	海外医薬品の価格情報の分析
平成 17 年 2 月 22 日	製薬企業ヒアリング
平成 17 年 3 月	価格設定方式に関する仮説設定
平成 17 年 8 月～10 月	日本の薬価の抽出と整理
平成 17 年 11 月～ 平成 17 年 12 月	海外医薬品の過去の価格変化の分析
平成 18 年 1 月 15 日～ 1 月 21 日	海外薬価当局訪問調査実施（欧州 3 カ国）
平成 18 年 2 月～3 月	日本におけるフラットプライス導入可能性の検討 報告書取りまとめ

1. 4 体制

本調査研究の実施体制は表 1-2に示すとおりである。

表 1-2 研究体制

名称	所属・役職等	役割
白神 誠	日本大学薬学部 教授	主任研究者
亀井美和子	日本大学薬学部 専任講師	分担研究者（資料収集・分析作業のとり まとめ）

2. フラットプライスの定義

本研究では、「フラットプライス」を成分の含量に対して価格が同一である医薬品の価格形態を示す用語として使用しているが、製品ごとの分析を行う上では、フラットプライスに該当するかどうかを切り分けるために、その定義を明確にしておかなければならない。この定義を行う上では以下の点について明らかにする必要がある。

- ・ 含量が異なっても価格が全く一定であるケースのみをフラットプライスとするか、含量に対して価格の増加がある程度の範囲内で小さいものまでを含めるか。
- ・ 含量の規格が3種類以上ある場合に一部でも価格がフラットであればフラットプライスとするか、全規格を通じて価格がフラットであるもののみをフラットプライスとするか。

本研究では、目的に応じて表 2-1のような2段階の基準でフラットプライスを捉えた。

まず第一の基準では各国のフラットプライスの全体像をとらえるために、完全に価格がフラットであるもののほかに含量に対する価格の傾斜が小さいもの、また、製品全体を通じて価格がフラットであるもののほか、一部でもフラットな部分があるものまで含めて、フラットプライスとして抽出することにした。どの程度を“価格の傾斜が小さいもの”とするかについては、検討する必要があるが、ここでは、含量の傾きが10%以下のものを“価格の傾斜が小さいもの”とした。

第二の基準では、より意図的に同一価格が設定されているものに限定してフラットプライスをとらえ、複数規格にまたがって全く同一の価格が含まれる場合のみをフラットプライスとした。

表 2-1 本研究におけるフラットプライスの基準

条件	基準1	基準2
規格間の含量に対する価格の傾斜	2 規格間の価格の傾斜(価格比-1)/(含量比-1) ¹ の絶対値が0.1より小さいものをフラットプライスとする。	2 規格間の価格の傾斜(価格比-1)/(含量比-1)が0のものフラットプライスとする。
含量規格が3規格以上ある場合	2 規格の間で該当条件1によりフラットプライスとなっている組合せが一つでも含まれていればフラットプライスとする。	2 規格の間で該当条件1によりフラットプライスとなっている組合せが一つでも含まれていればフラットプライスとする。
報告書の該当箇所	3. 3. 1~3. 3. 4 3. 3. 6	3. 3. 5 3. 4

¹含量に価格が比例している場合1、完全なフラットプライスの場合0となる。

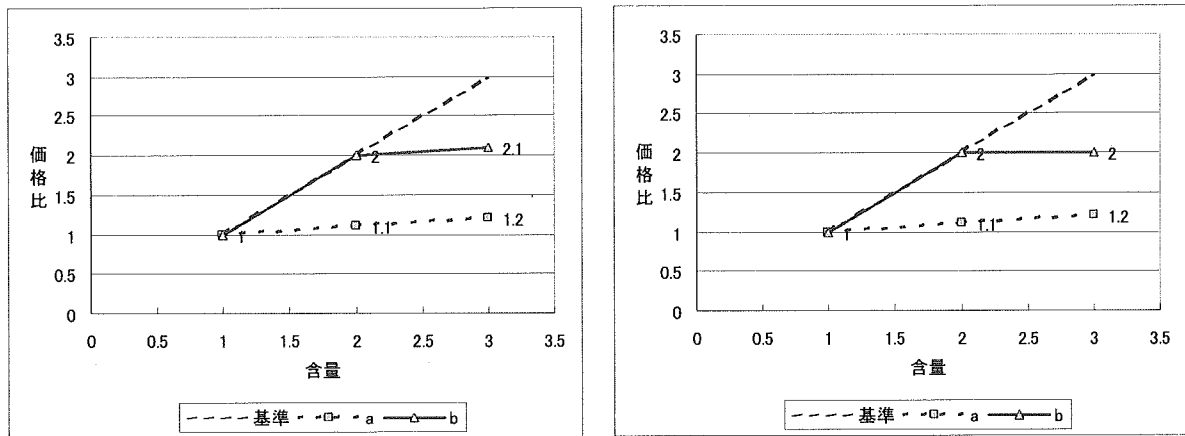


図 2-1 フラットプライスの例示

図 2-1はフラットプライスの定義の説明を補足するために、X軸を含量、Y軸を最低含量の価格に対する規格ごとの価格比として例示したものである。

左の例ではaは含量1と2及び含量2と3の間で傾きが0.1より小さく、またbは含量1と含量2の間では、価格が含量に比例しているが、含量2と含量3の間で、傾斜が0.1未満であるため、基準1ではa・bともフラットプライスに該当する。基準2では左の例ではともにフラットプライスとならないが、右の例では、bで傾きが0の部分が含まれるためフラットプライスとなる。

3. 海外薬価の現状調査

海外薬価の現状調査については、平成 16 年度において、米国、英国、ドイツ、フランスの薬価の現状をとらえ、さらに、平成 17 年度には、一部の薬効グループについて、過去の価格の推移についての調査を行うとともに、海外の調査結果と対比するため、日本の薬価についても調査した。以下に 2 年度分の一連の調査結果をまとめて示す。

3. 1 対象と抽出方法

各国で公表または市販されている価格情報を使用し、表 3-1の条件に該当する製品を抽出して価格と含量の関係を調べた。

研究に用いた各国の価格表では、医薬品の価格は製品の包装（パッケージ等）単位で表示されている。そこで製品の価格を包装単位で割ることによって単位(1錠、1カプセルなど)あたりの価格を求め比較を行った。

表 3-1 価格情報の抽出条件

項目	抽出条件
先発/後発の区分	先発品
剤形	錠剤またはカプセル
投与経路	経口薬
規格	含量の異なる複数の規格が存在する

なお、調査対象の各国においては、薬価に関する制度や薬価の形成において前提となる医療保障制度が大きく異なることから、以下では各国の薬価の収集に使用したリストについての解説とあわせて、各国の医療保障と薬価制度の概要について述べる。

3. 2 各国の薬価制度と使用した薬価リストの概要

3. 2. 1 米国

(1) 医療保障と薬価制度の概要

米国の公的な医療保障制度には、65歳以上の高齢者を給付対象とするメディケア（Medicare）と低所得者を給付対象とするメディケイド（Medicaid）があるが、これらの対象とならない層（高齢者以外である程度の所得がある層）については、公的な医療保障制度がなく、任意で個人ごとにまたは勤務先の企業を通じて民間の医療保険等に加入する。しかし、公的な医療保障制度の対象外で、民間医療保険に加入していない無保険者が人口の14.6%（2001年）に達しており、米国における医療保障政策上の長年の課題となっている。

メディケイドについては処方薬を給付の対象としているのに対し、メディケアでは処方薬に対する給付はこれまで行われていなかった。しかし、2003年にメディケア制度の改革が行われ、2006年から処方薬に対する給付が行われることが決まっている。

薬価の決定メカニズムは市場による価格形成によっており、医療保障における基準となるような価格は存在しない。実際の購入価格は購入側との交渉であり購入規模などの条件によって大きく異なるほか、メディケイドなどで公的なセクタが購入する医薬品は有利な割引価格が適用されるよう、法的な措置が行われている。

(2) 使用した薬価のリスト

Thomson Healthcare社が発行するRED BOOKを使用した。RED BOOKは医薬品のほかに保健衛生用品、体外検査薬をあわせて10万品目以上について規格ごとの価格を掲載しており、抽出条件に該当した成分数は276成分であった。

前述のように米国では医薬品の基準となるような公的な価格は存在しないため、RED BOOKに掲載されている価格は、Average Wholesale Price（平均卸売価格、AWP）と呼ばれるメーカーの公表する価格や、標準的なマージンを元に算出された価格を取りまとめたものであり、医療保険の支払いの参考価格等として利用されているが、必ずしも実際に取引されている価格を反映してないとされている。

3. 2. 2 ドイツ

(1) 医療保障と薬価制度の概要

ドイツでは歴史的に古くから社会保険方式による医療保障制度が発達しており、公的医療保険に人口の 9 割が加入している。

医療保険における医薬品の給付は薬局を通じて現物給付として行われ、処方 1 回ごとの利用者負担がある。

薬価に関しては 1989 年の医療改革法によって参照価格制度が導入されており、特許期間が切れ後発品がある医薬品については、参照価格が設定され、医薬品の価格が参照価格を超える場合は超えた部分については患者の負担となる。原則として、価格設定は製薬企業にとって自由であるが、代替品がある場合に参照価格を超える医薬品が選択されることは少ないため、実質的に価格の上限として機能している。

参照価格は、市場における価格の調査を元に設定、更新され、対象品目数は概ね全体の 6 割程度である。

(2) 使用した薬価のリスト

価格の調査に使用したのは、Editio Cantor 社が発行する Rote Liste (2004 年版) である。Rote Liste に掲載されている価格は疾病金庫の償還額の基礎となる価格であり、掲載件数約 11000 件 (掲載製品数) から抽出された成分数は 277 成分であった。

3. 2. 3 英国

(1) 医療保障と薬価制度の概要

英国における医療保障は 1946 年に確立された National Health Service (NHS) によって行われ、原則的に全ての医療の給付は税を財源として国から提供されており、医療費については薬剤費を含めて総予算制がとられている。

薬剤費については一般家庭医 (General Practitioner) と呼ばれる地域の一次医療を担当する医師の処方に基づき薬局が調剤した医薬品について、費用が NHS から支払われる。NHS からの支払は英国医薬食品庁からライセンスが与えられた品目について行われ、支払の基礎となる薬価は品目ごとに規定されており、Drug Tariff と呼ばれる価格表によって公表されている。なお、処方せんごとに一定額の利用者負担 (児童、高齢者等を除く) がある。

医薬品の価格は特許が有効な期間においては、製薬企業の自由な設定が可能となっているが、1999 年以降はブランド品について政府と製薬工業協会の間で、Pharmaceutical Price Regulation Scheme (PPRS) と呼ばれる協定が結ばれ、一定の利益率と研究開発費の範囲内で価格設定が行われることとなった。

後発品については、PPRS の適用はなく、市場価格の調査結果から支払価格が決定される。しかし、1999 年に生産量の突発的な変動などから後発品の価格が高騰したのを契機に、最大価格制度 (Maximum Price Scheme and Supply and Reimbursement of Generic Medicines) が導入され、特定の品目について高騰以前の価格を元にした上限価格が設けられた²。

(2) 使用した薬価のリスト

英国では NHS から支払われる薬剤費が薬局へのフィーの算出方法等とあわせて Drug Tariff として毎月更新され公表されており (インターネット上の電子薬価表の URL : http://www.ppa.org.uk/ppa/edt_intro.htm)、本研究では 2004 年 4 月版の Drug Tariff を使用した。価格は成分別に剤形、規格、包装数量が異なるごとに掲載されており、掲載品目総数約 1800 件 (成分数 540) から本調査では成分数で 218 成分を分析対象として抽出した。

² 2005 年 4 月にはさらに Scheme M & W が導入された。6. 4. 2 の英国保健省のヒアリング結果を参照のこと。

3. 2. 4 フランス

(1) 医療保障と薬価制度の概要

フランスの医療保障制度は公的医療保険が基礎となっており、国民のほとんどが Assurance Maladie (疾病保険) と呼ばれる公的な医療保険に加入している。医療費は償還払い方式がとられており、一旦患者が支払いを行い、事後医療費の一部または全部が支払われる³。

処方薬の償還は、傷病の重篤性や治療期間、医薬品の効果などを勘案して、全額償還、65%償還、35%償還、償還対象外の4種類に分類されており(重度の傷病に用いられる医薬品、長期使用する医薬品について償還率が高く、軽度の傷病に用いられる医薬品において償還率が低く設定されている)、医薬品の包装に貼付された証紙を添えて患者が医療保険に対し償還請求を行う。

保険の償還の基準となる薬価は国と製薬企業との交渉によって決定される公定価格による。

製品ごとの価格は全体に公定価格により他国より低く抑えられているが、医療費に占める薬剤費の割合は高い傾向にあるとされている。

(2) 使用した薬価のリスト

フランスの医薬品リストとしては VIDAL (VIDAL 社) を使用した。

フランスでは医療保険による償還価格が決まっているため、償還の対象となる医薬品についてのみ価格と償還率が掲載されている。

抽出された件数は約 5000 件の掲載製品の中で 160 成分と、4 カ国の中では最も少なかった。

³1999年に導入された IC カードの被保険者証を使ったシステムによって、患者の立替払いが不要な医療機関が増えている。

3. 2. 5 各国の抽出件数の状況

4 カ国の該当製品の抽出状況を一覧にして表 3-2に示す。

表 3-2 各国の対象価格情報の概要

	使用薬価リスト	該当成分数	掲載価格 ⁴
米国	Red book 2004	276	平均卸売価格
ドイツ	Rote liste 2004	277	疾病金庫の償還規準額
英国	Drug tariff (2004 年 4 月版)	218	NHS の支払基準額
フランス	VIDAL 2004	160	保険償還基準額

3. 3 各国のフラットプライスの状況

3. 3. 1 全体

4 カ国のいずれかで含量規格が複数ある成分は、全部で 473 成分であり、そのうち 1 カ国でも基準 1 によるフラットプライスのある成分（以下 3. 3. 4 までは同じ基準による）は 169 成分（35.7%）であった（次頁以降に掲載する表 3-3の全体の列）。

⁴海外薬価当局訪問調査で、各国のリストの掲載価格について確認をおこなっており、詳細については 6 章も参照のこと。

表 3-3 国別フラットプライスの状況

薬効分類	米国			独			英			仏			全体		
	複数規 格	フラット プライス	比率	複数規 格	フラット プライス	比率	複数規 格	フラット プライス	比率	複数規 格	フラット プライス	比率	複数規 格	フラット プライス	比率
112 催眠鎮静剤・抗不安剤	15	3	20.0%	13	7	53.8%	9	2	22.2%	5	0	0.0%	23	12	52.2%
113 末梢神経用剤	12	2	16.7%	13	2	15.4%	6	2	33.3%	6	1	16.7%	17	4	23.5%
114 解熱鎮痛消炎剤	13	2	15.4%	11	5	45.5%	16	1	6.3%	8	0	0.0%	22	6	27.3%
115 興奮剤・覚せい剤	4	1	25.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	4	1	25.0%
116 抗パーキンソン剤	2	2	100.0%	9	1	11.1%	4	1	25.0%	2	0	0.0%	10	3	30.0%
117 末梢神経用剤	32	14	43.8%	29	6	20.7%	31	6	19.4%	18	0	0.0%	53	21	39.6%
119 その他の中枢神経系用薬	5	5	100.0%	5	2	40.0%	2	0	0.0%	3	2	66.7%	6	5	83.3%
122 骨格筋弛緩剤	3	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	3	0	0.0%
123 自律神経剤	1	0	0.0%	2	1	50.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	4	1	25.0%
124 鎮けい剤	2	1	50.0%	2	0	0.0%	2	0	0.0%	0	0	0.0%	4	1	25.0%
131 眼科用剤	2	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	2	0	0.0%
133 鎮暈剤	0	0	0.0%	1	1	100.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	1	100.0%
211 強心剤	1	1	100.0%	3	1	33.3%	1	1	100.0%	0	0	0.0%	3	2	66.7%
212 不整脈用剤	13	5	38.5%	10	2	20.0%	10	3	30.0%	5	1	20.0%	16	7	43.8%
213 利尿剤	7	1	14.3%	7	1	14.3%	5	2	40.0%	2	0	0.0%	10	4	40.0%
214 血圧降下剤	30	22	73.3%	37	10	27.0%	29	8	27.6%	22	2	9.1%	45	27	60.0%
216 血管収縮剤	5	3	60.0%	4	3	75.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	8	6	75.0%
217 血管拡張剤	8	2	25.0%	7	3	42.9%	7	2	28.6%	9	1	11.1%	13	8	61.5%
218 高脂血症用剤	8	5	62.5%	7	0	0.0%	7	5	71.4%	5	0	0.0%	11	6	54.5%
219 その他の循環器官用薬	1	0	0.0%	3	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	5	0	0.0%
221 呼吸促進剤	0	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%
222 鎮咳剤	1	0	0.0%	0	0	0.0%	1	1	100.0%	0	0	0.0%	2	1	50.0%
223 去痰剤	0	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%
224 鎮咳去痰剤	0	0	0.0%	2	0	0.0%	2	0	0.0%	0	0	0.0%	2	0	0.0%
225 気管支拡張剤	3	0	0.0%	2	2	100.0%	3	1	33.3%	2	1	50.0%	5	3	60.0%

231	止瀉剤・整腸剤	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
232	消化性潰瘍用剤	6	1	16.7%	8	1	12.5%	7	0	0.0%	6	0	0.0%	10	2	20.0%
234	制酸剤	0	0	0.0%	4	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	4	0	0.0%
236	利胆剤	0	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%
239	その他の消化器官用薬	2	0	0.0%	2	0	0.0%	0	0	0.0%	4	0	0.0%	5	0	0.0%
241	脳下垂体ホルモン剤	1	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
243	甲状腺副甲状腺ホルモン剤	4	2	50.0%	3	2	66.7%	2	1	50.0%	2	0	0.0%	7	3	42.9%
245	副腎ホルモン剤	3	0	0.0%	7	2	28.6%	4	0	0.0%	3	0	0.0%	11	2	18.2%
247	卵巣・黄体ホルモン剤	4	0	0.0%	3	1	33.3%	2	0	0.0%	2	1	50.0%	6	1	16.7%
251	泌尿器官用剤	2	1	50.0%	1	1	100.0%	2	1	50.0%	0	0	0.0%	2	1	50.0%
259	その他の泌尿生殖器管 肛門用薬	4	4	100.0%	3	2	66.7%	4	1	25.0%	1	0	0.0%	4	4	100.0%
263	化膿性疾患用剤	0	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%
267	毛髪用剤	1	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
269	その他の外用剤	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	2	0	0.0%
279	その他の外用剤	1	1	100.0%	1	0	0.0%	1	1	100.0%	0	0	0.0%	1	1	100.0%
311	ビタミンA・D剤	1	1	100.0%	4	0	0.0%	2	1	50.0%	1	0	0.0%	5	2	40.0%
312	ビタミンB1剤	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%
313	ビタミンB剤	0	0	0.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%	1	1	100.0%
314	ビタミンC剤	0	0	0.0%	1	1	100.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	1	100.0%
316	ビタミンK剤	0	0	0.0%	2	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	3	0	0.0%
319	その他のビタミン剤	1	0	0.0%	3	1	33.3%	0	0	0.0%	1	0	0.0%	4	1	25.0%
322	無機質製剤	0	0	0.0%	0	0	0.0%	2	1	50.0%	1	0	0.0%	2	1	50.0%
333	血液凝固阻止剤	1	1	100.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	1	100.0%
339	その他の血液・体液用剤	1	1	100.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	1	100.0%
391	肝臓疾患用剤	0	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%
392	解毒剤	1	0	0.0%	3	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	4	0	0.0%
394	痛風治療剤	0	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%	0	0	0.0%	1	0	0.0%
396	糖尿病用剤	8	2	25.0%	6	2	33.3%	7	1	14.3%	7	2	28.6%	14	6	42.9%
399	他に分類されない代謝性薬	7	2	28.6%	7	0	0.0%	7	3	42.9%	6	1	16.7%	15	4	26.7%